



©Hideki Otsuka

# 最終目的は、魂の音楽

ピアノを始めて少し弾けるようになった小学低学年の頃、モーツァルトの細かいパッセージが弾けなかったり、トリルがうまく入らなかったり、左手の八分音符と右手の3連符を合わせられなかったり…、思うようにならないことが残念でたまりませんでした。下手な箇所を何度も繰り返し練習したものです。少しずつ弾けるようになっていくことが嬉しく、先生か

ら習う練習方法以外のこと、勝手にいろいろ試していました。それは子どもの私にとって、まるでゲームをしているようなフィリンドでした。たとえば東京で目的地向かうとき、JR中央線で行くか、山手線にするのか、または地下鉄に乗るのか、いくつもルートがあります。実際に乗ればこそ、「もつと良い乗り換えがあったのでは」とか、様々なこと

## 小山実稚恵 143 ピアノと私

### 公演情報

Étoile (エトワール)～ピアノの星 Vol.4  
小山実稚恵&宮田大 デュオ  
2月21日(土) 14:00 杉並公会堂  
宮田大(チェロ)  
ベートーヴェン: チェロ・ソナタ第3番  
ラフマニノフ: チェロ・ソナタ  
問い合わせ: 杉並公会堂  
☎03-5347-4450

2026 都民芸術フェスティバル参加公演  
オーケストラ・シリーズ No.57  
東京都交響楽団  
2月25日(水) 19:00  
東京芸術劇場コンサートホール  
太田弦(指揮)、東京都交響楽団  
ベートーヴェン: ピアノ協奏曲第3番  
問い合わせ: 日本演奏連盟  
☎03-3539-5131

を思うのと同じです。試すことの面白さと納得すること。さらには何かが会得できるかもしれないという一石二鳥の喜び。その感覚は、今も私の中に多少なりとも残っています。

でも、年を重ね経験が増えるほどに「本当に大切なもの」は何なのかというのを考えるようになります。目の前の課題をクリアできたからと言って、それが全体の答えになる訳ではない。「目の前の問題解決は、いったい何のために行なう必要があるのか」という永遠の課題が迫ってくるのです。演奏上の問題解決と音楽の本質はイコールではないということです。

音楽を追求してゆく道中では、練習方法の模索は必要です。もちろん的確な指の動きは重要ですし、楽譜を正確に音で再現するこ

とは必須です。かと言って正確に楽譜を再現できたから、それが音楽であるとも言いきれないのです。なぜなら作品は「作曲家の魂」であるから。作曲家の魂を感じながら、どうすれば自分の魂も音に込めることができるのか。フレーズを上手に弾くのではなく、フレーズに魂をどうやったら込められるか。「魂の音楽」それが最終目的です。

時に私は滑稽な練習もしてみたりします。瞬に落ちず考えあぐねた箇所の上を置いたままにし、翌日にその箇所を無心で弾いてみる。わざとそうやって偶然がもたらしてくれる奇跡を待ちます。それから寝起き状態でピアノに向かって、パッと曲を通してみたりすることもあります。無防備な時ほど自分の弱点は浮き彫りになるので、自分で自分のことを興味深く観察することもできます。

何をしたらところで、風変わりな練習をしたところで、結局はやるべきことはひとつ。こう弾きたいと強く願いながら、その想いを一心にピアノへと伝えること。その想いが極まった瞬間に、魂は音楽に入っていくのではないのでしょうか。

**KOYAMA MICHIE** 東京藝大卒、同大学院修了。1982年チャイコフスキー国際コンクール第3位。85年ショパン国際ピアノコンクール第4位。「12年間・24回リサイタルシリーズ」(2006～17年)や「ベートーヴェン、そして…」(19～21年)は、その演奏と企画性で高い評価を受けた。2022年より、サントリーホール・シリーズ「Concerto〈以心伝心〉」に続き、ソロ・リサイタルのシリーズ〈未来永劫〉を開催する。ショパン、チャイコフスキーの二大コンクールなどの審査員も務める。17年度紫綬褒章を受章。仙台での「こどもの夢ひろば」のゼネラル・プロデューサーを務める。